

実践問題

学習日 /

年 組 番号

得点 /100

1 熟語の読み方・書き方・意味
次の問いに答えなさい。

(1) 〈二通りの読み〉「分別」(ぶんべつ)のように、二通りの読み方があり、読み方によって意味も異なる語を、次の()の中の文字を二つ選んで組み合わせて一つ作り、その読み方を二通り書きなさい。

〔要項整理〕①(空答10点)〔書森県・改〕

〈 気 高 人 朝 役 暗 〉
熟語 () 読み方 ()

(2) 〈熟語完成〉 次の一線部の片仮名と同じ漢字を使う熟語を後から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)〔鳥取県・改〕

・織イ製品を輸出する。
ア 現状をイ持する。 イ イイ大な人物と会う。
ウ 規則にイ反する。 エ イ産を受け継ぐ。

コナ 一線部の漢字が続くことが前展た。「織イ」の「織」は「織細」「織毛」などの熟語を作り、「ゼン」と読む。

(3) 〈熟語の意味〉「野趣」の「野」は、「人の手が加わっていない」の意味で使われているが、漢字の「野」にはほかに①広々とした土地 ②荒っぽい ③範囲 ④大それたなどの意味がある。次のア〜エから、「野」が③範囲の意味で使われている熟語を一つ選び、記号で答えなさい。(5点)〔愛媛県・改〕

ア 粗野 イ 視野 ウ 野草 エ 野望

② 書道 (鳥取県)
ア 登山 イ 省略 ウ 日照 エ 急流

③ 成功 (岐阜県)
ア 自作 イ 読書 ウ 優秀 エ 軽重

④ 着席 (栃木県)
ア 帰郷 イ 柔軟 ウ 良心 エ 非常

⑤ 繁栄 (秋田県)
ア 公立 イ 豊富 ウ 握手 エ 多忙

⑥ 眼前 (香川県・改)
ア 巧拙 イ 廃棄 ウ 洗顔 エ 海藻

コナ 構成を考えながら熟語の意味を文にしてみよう。訓読みのある漢字は訓読みしてみると分かりやすい。

(2) 〈三字熟語の構成〉「無人島」と構成(組み立て)が同じものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)〔書森県〕

ア 無記名 イ 無自覚
ウ 無機物 エ 無趣味

コナ 「〇+〇〇」の組み立てか、「〇〇+〇」の組み立てかを考えよう。「無人島」は「無・人島」「無人・島」のどちらか。

(3) 〈接頭語〉 次の「a」・「b」に、「無意識」の「無」のような接頭語をそれぞれ入れて三字の熟語を作り、文を完成させなさい。(石川県・改)

・注文の品は「a」完成だが、期日までに仕上げるのは「b」可能ではない。

a b

2 同音異義語
次の問いに答えなさい。(5点×2)

(1) 〈同音異義語〉「シジヨウ」と読む漢字二字の語には、「史上」「紙上」のほかにとんなものがあるか。一つ考えて書きなさい。(書森県・改)

(2) 〈同音異義語〉 次の一線部の片仮名を漢字で表したとき、その漢字と同じ漢字を含む熟語を後から一つ選び、記号で答えなさい。(鳥取県)

・他人の権利をオカしてはならない。
ア 学級会のシンコウをする。
イ スポーツのシンコウにつくす。
ウ 敵地にシンコウする。
エ 隣国とシンコウを深める。

コナ 「シン」の部分に「オカす」と同じ漢字を使う熟語を見つければ、熟語全体の意味を捉えることが大切だ。

3 熟語の構成
次の問いに答えなさい。(5点×9)

(1) 〈二字熟語の構成〉 次の熟語と構成(組み立て)が同じものをそれぞれ後から一つ選び、記号で答えなさい。(香川県)

① 優劣
ア 人造 イ 傾斜 ウ 応答 エ 増減

4 四字熟語
次の問いに答えなさい。(5点×5)

(1) 〈四字熟語の意味〉「無我夢中」に最も意味の近いものはどれか。次から一つ選び、記号で答えなさい。(山梨県・改)

ア 五里霧中 イ 一心不乱
ウ 不眠不休 エ 暗中模索

(2) 〈四字熟語の構成〉 次の「.....」内の語句のうち、「時々刻々」のように上下二字ずつ同じ字を重ねた形になる四字熟語が二つある。その二つを選び、空欄に適切な字を入れて四字熟語を完成させなさい。(都立国立高・改)

.....揚々.....粒々.....是々.....翼々.....虚々.....

(3) 〈熟語作成〉 ()内の漢字を使って、「大げさ」と同じような意味を表す四字熟語を一つ作りなさい。(鳥取県)

〔水 小 八 棒 田 七 針〕
〔異 我 同 転 大 倒 引〕

(4) 〈四字熟語の使い方〉「枝葉末節」の使い方が正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(栃木県)

ア 梅の枝葉末節に花が咲いて、春の訪れを告げている。
イ 彼は物事を考えるとき、枝葉末節にこだわりすぎる。
ウ あの人の話すことは、全く枝葉末節が合っていない。
エ 無理な運動をした次の日は、身体の枝葉末節が痛む。

コナ 「枝葉末節」は、「本筋から外れた、つまらない事柄」という意味の四字熟語。

実戦問題

学習日 / 年 組 番号 名前 得点 /100

小説文

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(岡山県・改)

朱里と衣花は、瀬戸内海の過疎の島に暮らす高校二年生である。その島では、過去に火山の噴火があり、多くの人が避難したことがある。朱里と衣花は、あとしたことから、朱里の祖母の友人碧子が勤めていた大阪の小学校を助ねることになる。次は、そこで働く小湊先生と朱里との会話である。

「一学年二十人以上の子どものが、どの学年も、平均三人くらいのものになってしまつたらしいです。碧子先生は当時、中学生だつたそうで」

小湊が続ける。
「島に戻つて一年目に、小学校で、卒業式に劇をしたんだそうです。無事に卒業の時に島に戻れてよかつたので喜びながら、だけど、やった劇を観て、碧子先生たちはかわいそうに思えて仕方ない気持ちになつたんだと言っていました」

「かわいそうつて、どういうことですか」
「演目はなんだつたか忘れてしまつたのですが、三人しかいない子どもが、一人何役もやるんだそうですよ。前は二十人くらいでやつた劇ださうだから、当然でしょうね。一人が何回も早着替をして、息を[A]セリフを読んで、最後の方には息も絶え絶えになつて[B]しまつていたんだそうです」

「ああ……」
想像してみるとかわいい話だが、確にかわいそうだ。自分たちがやらされたなら、たまつたもんじやないだろう。

——それを見ていた、朱里の祖母や碧子先生は中学生。
自分たちの後輩が、かわいそうになつたのだ。
「来年からは、合唱か組み体操か何かに変更しようかつて話も出ていたところで、碧子先生は、友達と一緒に、だつたら、劇を書ける人に新しい、少人数でもできるものを書いてもらおうと考えつたんだそうです。せめ

てさう、三人くらいでできるものを、本土に避難している間に知り合つたウエノ先生の家を、親にも内緒でいきなり訪ねたんだつて、武勇伝を話すみたいに話していました」

「……それはなんか、わかります」
朱里が耳の先を赤くして、ぼつりと呟いた。
「子どもだけで、友達と冒険するの、きつとドキドキするだらうけど、楽しかつただらうなつて、思います。祖母にも、そんな時があつたんだと思つて、嬉しいです」

「ウエノ先生は、作家としてはとても厳しく怖い人だという噂だつたさうですけれど、碧子先生たちのことは、優しく迎えてくれたさうです」
そして、「見上げてごらん」を書いてくれた。

「できあがつたものを取りに来て言われて、行つてみて、碧子先生は仰天したさうです。ものすごく分厚い、紙の束になつている。自分たちがお願いしたのは、三人でできるシンプルな劇のはずで、あんまり長いんじゃないかと困つていると、ウエノ先生から「違つよ、これは全部、別」と言われた」

「別？」
「一束一束、全部違つて脚本だつて、説明を受けたさうです。脚本は、子どもが一人でもできる一人芝居のものから、二十人用、と書かれたものまで全部で二十パターンあつたさうです」

——今は、子どもは三人しかいないかもしれないが、いずれ、一人、二人と戻つてくるだらう。噴火で散り散りになつても、子どもは絶対に戻つてくる。

ウエノ氏は、さう言つたさうだ。
「励まして、祈りの言葉のように感じたと、碧子先生は言いました。少女

興味ある言葉でこめんなさい、と照れたように笑いながら
衣花と朱里は、一度は離した手を、再びきゅつと握つた。言葉を、噛みしめる。 [C]。
(辻村深月「島はぼくら」とによる)

* 「見上げてごらん」 島の小学校で代々演じられてきた劇の題。
(1) 場面把握 「三人しかいない子ども」とは、どんな子どもたちか。次の文の [] に入る言葉を、文章中から十二字で抜き出しなさい。

・避難先から、 [] た子どもたち。
[]

(2) 情景把握 [A]・[B] に入る言葉として最も適切なものをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

- [A] ア のんで イ 殺して
ウ ひそめて エ 切らして
[B] ア 慌てて イ 疲れて
ウ 恐れれて エ 騒いで

(3) 場面把握 「自分たち」「自分たち」は、それぞれどの人たちを指しているか。組み合わせとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ② 朱里たち ③ 小湊先生たち
イ ② 朱里たち ③ 碧子先生たち
ウ ② 碧子先生たち ③ 朱里たち
エ ② 碧子先生たち ③ 小湊先生たち

【コチ】 ②は現在の場面に実際に登場している人物、③は小湊先生の話の中に登場する人物を指していることに注意しよう。

(4) 場面把握 「ドキドキするだらうけど、楽しかつたんだらうな」とあるが、ここでは何をしたことについて言っているのか。「親に内緒で作家の家を訪ね、」に続く形で答えなさい。

(5) 場面把握 「仰天したさうです」とあるが、ここでは予想に反して意外なことが起きたことに「仰天」している。どのようなことに「仰天」したのかを、予想していた内容に触れながら、文章中の言葉を使って、五十字程度で答えなさい。

[]

10 50 55 100 150 45

【コチ】 自分たちがお願いしていたおりのものができあがつたと思つて、取りに行つているのでこれが予想していた内容に当たる。

(6) 要点把握 「二十パターン」とあるが、脚本のパターンの違いは何によるものか。自分の言葉で答えなさい。

(7) 内容吟味 [C] には、過疎の島に住む衣花と朱里が「噛みしめ」た言葉が入る。その言葉を、文章中から十二字で抜き出しなさい。

[]

詩を味わう

学習日 / 年 組 番 名 前 得点 /100

詩歌

実戦問題

1 次 の 詩 を 読 ん で、 後 の 問 い に 答 え な さ い。 (北 舞 蓮・改)

太陽と海と季節が
 太陽と海と
 そして季節が
 風を暖めた
 風は海から吹いて
 空をまるくふくらませ
 雲を軽くした
 草と木を吹いて
 花と葉の色を
 光の中に目覚めさせた
 暗い土の中に
 閉ざされた
 球根のかたくな眠りさえ

太陽と海と
 そして季節が
 風を暖めた
 風は海から吹いて
 人々の肩に軽く触れた
 頬に頬に唇に
 風は確かに伝えたか
 人々の心の奥のかたくなな夢の扉へ
 太陽と海と季節からの贈りものを

(高野聖雄「詩集 木と私たち」による)

(1) 〈詩の情景〉 この詩で表現されている季節と同じ季節を詠んだ俳句はどれか。最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。(要点整理) ④ (15点)

いく様子が描かれ、後半では、その風が人々の心の奥にまでは届かず、人々の夢が消えかけていることへの心配が描かれている。

2 次 の 「鉄棒」とい う 詩 と そ の 詩 を 紹 介 す る 文 章 を 読 ん で、 後 の 問 い に 答 え な さ い。 (大 阪 府・改)

僕は地平線に飛びつく
 僕に指さきが引つかかった
 僕は世界にぶら下つた
 筋肉だけが僕の頼みだ
 僕は赤くなる 僕は収縮する
 足が上つてゆく
 おお 僕は何処へ行く
 大きく世界が一回転して
 僕が上になる
 高くからの俯瞰
 ああ 両肩に柔軟な雲
 (石野四郎「体操詩集」による)

【紹介する文章】
 この詩に描かれているのは鉄棒の逆上がり運動の様子です。ここではまず、鉄棒を [a] と表現しています。さらに、顔を真っ赤にして体を引き上げ、鉄棒の上に静止するまでの様子を「大きく世界が一回転して」という言葉を使って表現しています。そして、この詩全体からは、空間的な広がりとして [b] とがよく伝わってきます。

- ア 初雪や波のとどかぬ岩の上
- イ 奥深き杉の木の間の紅葉かな
- ウ 長梅雨の紙飛行機散る子供部屋
- エ 菜の花の化したる蝶や法隆寺

(2) 〈表現技法〉 「球根のかたくな眠りさえ」とあるが、「眠りさえ」の後に言葉を補うとき、最も適切な一文節を詩中から抜き出さない。(要点整理) ② ④ (15点)

(3) 〈鑑賞〉 この詩について説明した文として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(要点整理) ④ (20点)

- ア この詩の前半では、暖められた風が自然を包みこむ様子が描かれ、後半では、その風が人々の心の奥にまで届くことで、人々の閉ざされていた心が開かれたことへの喜びが描かれている。
- イ この詩の前半では、暖められた風が自然の中を吹き抜けていく様子が描かれ、後半では、その風が人々のからだに触れることで、人々の心までも豊かになったことへの驚きが描かれている。
- ウ この詩の前半では、暖められた風によって自然が変化していく様子が描かれ、後半では、その風が人々の心の奥にまで届くことで、人々の夢がふくらんでいくことへの期待が描かれている。
- エ この詩の前半では、暖められた風によって自然がはぐくまれて

(1) 〈表現技法〉 [a] に当てはまる適切な言葉を、詩の中から抜き出さない。(要点整理) ② ④ (15点)

(2) 〈内容把握〉 「僕は収縮する」は、どのような様子を表現したのか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(要点整理) ③ (15点)

- ア 緊縮しすぎて、全身がこわばってしまった様子。
- イ 鉄棒の重みに、精いっぱい力んでいる様子。
- ウ 腕の筋肉を、力いっぱい縮ませている様子。
- エ 恐ろしさのために、全身が縮こまってしまった様子。

(3) 〈鑑賞〉 [b] に当てはまる最も適切な言葉を、次から一つ選び、記号で答えなさい。(要点整理) ④ (10点)

- ア 逆上がりの運動の難しさ
- イ 「僕」の動きの力強さ
- ウ 大空の雲の柔らかさ
- エ 「世界」全体の複雑さ

【コトバ】 「僕は世界にぶら下つた」「大きく世界が一回転して」などの表現に注目。「世界」を相手に筋肉を収縮させながら、みごと逆上がりに成功した「僕」の様子と結び付けよう。

古文の特徴を知る

基本問題

学習日 /

年 組 番 名前

得点 /100

例題

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてあたり。

秋は夕暮れ。夕日の差して山の端いと近うなりたるに、鳥の棲所へ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

1 歴史的仮名遣い

(1) 線A～Eの部分で現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書きなさい。

Table with 5 columns labeled A, B, C, D, E containing text from the passage: A いふ B よろづ C 使ひけり D あたり E 近う

2 古語の意味

(2) 線①～④の古語のここの意味をそれぞれ後から一つ選び、記号で答えなさい。

Matching exercise between 5 numbered items and 4 options (A, B, C, D) for each item. Includes a table for answers ①-④.

3 古文の特徴

(3) 「あやしがりて」は誰の動作か。文章中から、四字と八字で二つ抜き出さない。なお、二つの言葉は同一人物を指します。 (10点×2)

(4) A～Eの「の」のうち、使い方が他の三つと異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。 (10点)

要点整理

1 歴史的仮名遣い

Table with 5 rows and 2 columns. Row 1: 「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読む。 Row 2: 「ぢ・ぢ」は「じ・ぢ」と読む。 Row 3: 「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」と読む。 Row 4: 「くわ・ぐわ」は「か・が」と読む。 Row 5: 「au・iu・eu」は「o・yu・yo」と読む。

例題攻略(1)

右の表のとれに当てはめればよいから考えよう。A・Cは①じ、Bは②ぢ、Dは③ぢに当てはまる。E「ちかちか」をローマ字で表してみると「chika」となり、⑤に当てはまる。

2 古語の意味

① 現代と異なる意味を持つ古語

- あはれ しみじみと心ひかれる。 / いとしい。
うつくし かわいらしい。 / みことだ。
おどろく はこと気がつく。 / はこと目を覚ます。
すさまじ 興ざめた。 / 殺風景だ。
けしき 権子。 / 奏情 / きざし。

② 現代では使われない言葉

- いと たいへん。とても。 げに 本当に。
さらなり 言うまでもない。 とく はやく。
つとめて 早朝。 のたまふ おこしやる。
懐ふ お仕えする。 / あります。 ございます。

例題攻略(2)

「ここの意味」に注意。例えば④「をかし」を古語辞典で引くと、現代語の「かわいらしい」と同じような意味のほか、いろいろな意味が出ている。文脈に合うものを選びなさい。

3 古文の特徴

① 主語の省略... 動作主をはっきり示さない文が多い。また、文の途中で主語が変わる文もある。

② 古文の助詞

- 主語を示す「の」 例 鳥の棲所へ行くとして
連体修飾語を示す「が」 例 だが教へを聞きて

③ 会話部分の示し方... 「」を用いない場合がある。

会話部分の後には「……とて」や「……と言ふ(申す・問ふ)」という言葉が続くことが多い。
例 ……この一矢に復むべしと思ふといふ。(復讐者)

